

命を救う力を磨く

災害が発生したとき、個人や地域の避難行動も大切ですが、一方で、被災者を救出し、まちを守る消防隊の機能も重要です。被害を最小限に食い止めるための「消防力」を試し、高める場として、総合防災訓練と同日、緊急消防援助隊による大規模な合同訓練が行われます。

緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、大規模災害の発生時に、全国の消防機関が円滑に相互援助できるように、平成7年に創設されま

訓練の想定

苫小牧市を襲った震度7の地震により、市街地での建物倒壊や火災、道路・電気などのライフラインの寸断が起こり、沿岸部には大きな津波が押し寄せ家屋が流出。さらに石油コンビナート火災が発生し、北海道内の消防力では対応困難なため、緊急消防援助隊の応援を受ける。



とき 10月11日(金)、12日(土)

ところ 汐見町1丁目3番地および2丁目1番地
(ケーソンヤード) ほか

一般公開は12日(土) 9時~12時

緊急消防援助隊 北海道東北ブロック合同訓練

詳細 消防本部警防課 TEL32-6714

40年に一度の訓練 ぜひ会場に

今回の訓練は、「東日本大震災後初の実動訓練」として、震災で甚大な被害を受けた岩手県、宮城県、福島県からも部隊が参加し、過去最多の246隊933名が本市に集結します。

より実際の現場に近い形での訓練とすため、内容の一部を伏せたブラインド型訓練を行います。また、様々な訓練を通して、自衛隊・海上保安庁・警察などの防災関係機関や医療機関・DMAT(災害派遣医療チーム)との連携を深め、有事の際も迅速に、安全に市民を救助する体制を作っていくことを考えています。

被災地での経験を生かしながら、苫小牧市消防本部一丸となって準備を進めてきました。40年に一度とも言われるこの訓練をぜひ多くの方にご覧いただきたいと思えます。

インタビュー

消防本部 警防係長
みと 三戸 英充



警防係長として災害への警戒や訓練などを担当する。東日本大震災の際は、緊急消防援助隊として被災地に派遣(北海道2次隊)。今回は事務局として、合同訓練を企画。47歳。

インタビュー

消防本部 消防司令補
きだ よしのぶ
喜田 芳寿



苫小牧市の特別救助隊の一員。東日本大震災の際は、緊急消防援助隊として被災地に派遣(北海道4次隊)。「命を救う」という、強い使命感で職務にあたる。35歳。

2年前の東日本大震災の際、緊急消防援助隊の一員として宮城県石巻市の入釜谷地区に向かいました。倒壊した建物や浸水した家屋、目を疑うような凄惨な状況の中で、行方不明者の捜索活動をしました。

今回は被災地の消防隊や、高度な技術を持った救助隊が苫小牧に集まります。この機会に、彼らと実際の現場で培った技術や経験を共有し、苫小牧市の消防力を磨き、より多くの人命を救うことができるよう、全力で取り組んでいきたいと考えています。

防災意識として大切なのは、日頃のコミュニケーションです。訓練を見ていただく際には、「自分だったらどうやって助かるか」と考えていただけたら、非常に嬉しく思います。

消防力を高め
多くの命を助けたい